陸連時報 九三

題字は平沼亮三(初代陸連会長)の書

2013 4 月号
平成25年

2013年度強化委員会各ブロックの抱負

強化委員会

【男子短距離ブロック】　　男子短距離部長　伊東浩司

前任の苅部氏から引き継ぐかたちで、昨年11月1日から男子短距離部長に就任することになった。この職を引け受けるにあたって、今まで解説業で使用していた資料などで、日本男子短距離の現状を分析したところ、大変厳しい現状に直面した。個人での世界選手権参加標準記録突破は、桐生祥秀選手（洛南高校）の100m10秒19が唯一参加標準記録Bを突破している状況である。このような現状を踏まえて、男子短距離部としては、2016年リオデジャネイロオリンピックを見据えた4年間の強化計画に基づき、ロンドンオリンピック後までの課題を明確にし、強化をしていきたいと考えている。男子短距離の目指すものとしては、4年後のリオデジャネイロオリンピックの決勝ラウンドで勝負すること。そのためには、短距離種目での日本記録更新、特に、200mを走れる競技者を増やすことである。ショートスプリント種目では、昨年のロンドンオリンピックにおいて、4×100mリレーチームが、決勝において、シードレーンを獲得し5位入賞を果たし、継続してきたことがしっかり固まってきた。しかしながら、リオデジャネイロオリンピックでさらに上位を目指すには、バトンパスワークの技術向上に加え、個人種目でのレベルアップに努めなければならない。個人種目では、上記のとおり、100mの日本記録が1998年、200mの日本記録が2003年と、10年近く更新されていない。この記録が、世界の舞台で勝負をする目安の記録になってくると思う。国内の条件が良いとされる競技会に加え、出来るだけ多く海外でのレースを経験し、世界のスプリンターを意識しながら、アスリートとして成長してほしいと思う。

ロングスプリント種目は、ロンドンオリンピックに出場はしたが残念ながら結果を残すことが出来なかった。この数年、ロングスプリント陣の走力低下は著しく、特に、200mのスピード低下が顕著である。4×400mリレーの実際のレースでは、前半でしっかりレースを作りきれない場面が目立つようになった。一方、世界ランキングでは7位と世界水準で踏ん張っている状況である。今後、ロングスプリントでの強化には個々の走レベルの向上が必須条件であるが、リオデジャネイロオリンピックまでの4年間は、200mの記録向上の意識付けを行っていきたいと考える。最後に、初年度にあたる2013年度は、世界選手権、アジア選手権、東アジア競技大会と主要国際大会が続く。男子短距離としては、世界選手権が最重要競技会になることは間違いないが、それ以上に、アジア選手権での優勝にこだわっていきたいと考える。

【女子短距離ブロック】　　女子短距離部長　瀧谷賢司

女子短距離チームは、2016年度リオデジャネイロオリンピックを最終目標として、2013年度はそれに向けた新たな一歩を刻む1年としてとらえ、取り組んでいきたい。今年度の強化方針は、以下の通り具体的な目標を掲げ、進めていきたい。

■リオデジャネイロオリンピックに向けての強化策

1：福島千里選手（北海道ハイテクAC）を中心とした強化〈トップ選手の充実〉

2：U23、U19と連携した次世代の強化〈選手層の充実〉

3：選手、専任コーチ、ナショナルコーチの意思統一〈チーム力の充実〉

福島選手、高橋萌木子選手（富士通）、市川華菜選手（中京大学）、土井杏南選手（埼玉栄高校）のロンドンオリンピック代表組のさらなるレベルアップ、意識改革が必要と思われるが、そのためにはまず、私たち強化スタッフが各選手の具体的な目標や特性を把握し、選手が純粋に前に向かって進めるよう、組織をコーディネートすることが重要なポイントと感じている。

本年度の世界選手権（モスクワ）に関しては、現時点で標準記録を突破している選手がいないが、福島選手には100・200m（11秒28、23秒05の共にA標準）、土井選手にも100m（11秒36のB標準）の突破を期待している。4×100mリレーは、アジア選手権（チェンナイ）まで走る機会はないが、福島選手・市川選手・高橋選手・土井選手に渡辺真弓選手（東邦銀行）を中心としたメンバーを軸に挑むことで、最終目標であるリオデジャネイロオリンピックにつながるものと信じている。

ロングスプリントについては、千葉麻美選手（東邦銀行）、青木沙弥佳選手（同）、久保倉里美選手（新潟アルビレックスRC）、新宮美歩選手（東大阪大学）、三木汐莉選手（同）を中心としたメンバー全員がフラットレースで52秒台に突入することで、4×400mリレーにも夢と希望が見えてくる。アジア選手権では、それに市川選手などを加え、3分30秒を切る日本新記録をマークすることが五輪に向けた第一歩であると考える。

また、現在の女子短距離ブロックの現状を語る上で、選手層の拡大が急務であり、ジュニアを含め次世代を担う選手の発掘、育成が重要事項であると考える。U19、U23と綿密に連携を取り合い、縦のつながりを深め、代表組との合宿などを計画・実行することが2016年に結果を残す上でも、大きなきっかけとなると信じている。各世代のランキング上位者のみならず、能力の高い将来性のある選手を含め、強化していく必要を感じている。

最初にも述べた通り、選手・専任コーチ、ナショナルコーチの意識・方向性の統一という課題の解決が最重要ポイントとなっている。あくまでも選手が主役であり、各選手がナショナルチームで高い意識を持ち、具体的な目標に向かって活動できるよう、組織をもう一度精査し、たくましいチームとして育てていく必要がある。すでに、2016年に向けた道のりが動き出していることを肝に銘じつつも、焦らず、急がず目標に向け

突き進むことで、国際大会でのファイナル進出という夢を実現できると信じ精進していきたい。

【ハードルブロック】 ハードル部長　谷川　聡

ハードルは男女ともにここ数年で底上げされてきており、リオデジャネイロオリンピックでの各種目でのファイナル進出を見据え、昨年度からの若手選手の強化を進めていきたい。そのために、各選手およびコーチと相談し、オリンピックまでの長期的トレーニング計画、国内外のトレーニング拠点の確立を促す中で、海外転戦および合宿などを選手自身で計画・実行できるように、自立した選手が育成されるようにサポートしていきたい。そのために、国内外での若手選手を中心とした、積極的な参加型での強化を進めようと考えている。

男子110mH、女子100mHおよび女子400mHでは、2013年モスクワ世界選手権での複数選手の出場、2015年北京世界選手権でのセミファイナル進出（セミファイナルで組５～６位）を目指し、2016年リオデジャネイロオリンピックでのファイナルを目標にする。選手としては、110mHは大室秀樹選手（筑波大学）、佐藤大志選手（青山学院大学）、矢澤航選手（法政大学）らがいずれも、更なるスプリント力をつけることで、13秒50を突破してもらいたい。100mHでは、木村文子選手（エディオン）が、国際大会・合宿を経験しており、13秒0台であと何度か走ることによって、12秒台突入が可能になると考えられる。また、紫村仁美選手（早稲田大学）、伊藤愛里選手（住友電工）ともに13秒１を切り、複数の選手が日本代表として戦ってもらいたい。女子400mHは国際大会の経験と実績を持つ久保倉里美選手（新潟アルビレックスRC）、青木沙弥佳選手（東邦銀行）に続く三木汐莉選手（東大阪大学）、吉良愛美選手（中央大学）や若手などが走力の改善により55秒台突入することが期待される。

男子400mHは、ロンドンは惜しくもケガに泣いたが、ファイナリストの力を持つ岸本鷹幸選手（法政大学）を中心に、野澤啓佑選手（早稲田大学）、安部孝駿選手（中京大学）、舘野哲也選手（中央大学）と48秒台を狙えるような学生選手が複数おり、各選手がコンスタントに48秒台で走ることで、今年の世界選手権セミファイナルでファイナルを目指して戦えるようになってもらいたい。また、グランプリ大会の転戦だけでなく、日本代表選手が国内でも競り合うことが、重要であると考えられる。2015年および2016年はファイナルだけでなくメダル獲得のビジョンをも持って取り組んでいってもらいたい。

各種目若手中心であることから、専門的技術だけでなく、まずハードル選手としての専門的スプリント能力を複数年で高めることが、オリンピックでの成果をあげることにつながると考えられ、強化合宿などで様々なトレーニング基準を設けながら各選手がトレーニング目標を定められるようにしていきたい。

【跳躍ブロック】 跳躍部長　吉田孝久

跳躍部は、リオデジャネイロオリンピックへ向けて「オリンピックで日の丸を！」というスローガンを掲げ、強化を進めている。初年度となる今年は、ベース作りをテーマに、基礎体力の向上とそれぞれの跳躍技術の基礎を身に着けることに取り組んでいる。

技術トレーニングの一環として取り組んでいるインドア競技会では、棒高跳の山本聖途選手（中京大学）が５m71（日本ジュニア室内陸上、大阪市）、我孫子智美選手（滋賀レイクスターズ）が4m33（西田修平・安田矩明記念室内棒高跳湖西大会）のともに室内日本記録を跳躍した。男女ともアウトドアシーズンに向けて上々のスタートが切られている。

さて、今年のアウトドアシーズンは、世界選手権、アジア選手権、ユニバーシアード、東アジア競技大会と多くの国際大会が開催される。東アジア競技大会は若手選手、ユニバーシアードは学生中心による編成と、大会ごとに出場する選手のカテゴリーは異なるが、多くの若手選手にとってはベースとなる足固めをしながら次のステップに向けた国際経験を積むことが課題となる。

一方で４年後の活躍を強く意識しているシニア選手にとっては、今年のうちに世界を経験しておく必要がある。したがって、モスクワ世界選手権が大きな目標となる。そして、これに出場する可能性の高い種目は男女の棒高跳と男女の走幅跳だろうと考えている。

その候補選手は、男子棒高跳ではすでにＡ標準を突破している山本選手、日本記録保持者の澤野大地選手（富士通）、怪我からの復調を目指す荻田大樹選手（ミズノ）が有力で、彼らを中心に代表が争われるだろう。そして彼らが揃って調子を上げてくれれば３名による出場も不可能ではない。男子走幅跳では、これまで８ｍを安定して跳びながら出場できていない菅井洋平選手（ミズノ）と昨年の怪我から順調に回復している猿山力也選手（モンテローザ）に期待がかかる。また、男子走高跳の戸邊直人選手（筑波大学）も１月に単身でスウェーデン合宿を敢行するなど積極的にトレーニングを行っているので期待したい。

女子については、インドアでも好調だった棒高跳の我孫子選手と、昨年は天候や風に恵まれず惜しくも記録を突破できなかった走幅跳の岡山沙英子選手（ボスアル）、そして走幅跳と三段跳の両種目に取り組んでいる桝見咲智子選手（九電工）にも標準記録突破の期待がかかる。

いずれも世界選手権参加に向けてはＢ標準突破が目安となるが、世界で勝負するにはＡ標準が必要である。選手にはサーキット等の試合をうまく活用し、より高いレベルの記録を目指してもらいたい。

【投擲ブロック】 投擲部長　栗山佳也

１．現状の把握

ロンドンオリンピックが終わり、リオデジャネイロに向けた強化対策が昨年11月からスタートを切ったわけだが、ロンドンでは室伏広治選手（ミズノ）が銅メダルを獲得し、男子やり投ではディーン元気選手（早稲田大学）が決勝進出、同じく村上幸史選手（スズキ浜松AC）、海老原有希選手（スズキ

浜松AC）らも活躍した。これら４選手を見てみると、ジュニア時代に世界を相手に入賞し活躍してくれた選手達である。つまり、少なくともジュニア時代に世界で戦える手応えや結果が収められるぐらいの競技力であることが必要であると思われる。投擲種目以外でも同様のことが言えるのではないか。

ではこれから「世界で戦う」となるとユースやジュニアでその可能性のある選手たちをどう育てていくかであり、長期的観点からタレント発掘→育成→強化の流れをどう作っていくかが課題である。

また、日本の競技スポーツの歴史を見た場合、学校の課外活動で体育教師中心の育成・強化に頼って来たのが現状で限界がある。公立学校では教師の転勤があり、強化が断続的で一貫性がなくなることも事実で、国の競技スポーツに対する抜本的な改革が行われれば別だが、この現状である限り厳しさを感じる。せめて選手たちが思い切って投げることができる投擲練習場の確保や専門的指導者の配置を含め、底辺拡充から世界を目指すことが望まれる。

２．今後の強化計画

この度の原田強化委員長による新強化体制の方針として、重点強化種目に男女やり投が挙げられた。インターハイ、国体、インカレなど若い世代を見たとき、確実にレベルが上がっており、過去５年間で比較したところかなりのレベルアップが見られる。日本20傑平均の男子では、2008年72m28から2012年75m42と＋３ｍ以上、女子でも2008年52m32から54m37と＋２ｍ伸びている。他の種目も女子砲丸投を除き年次的に伸びているが、特にやり投において顕著である。広州でのアジア競技大会では男女やり投が優勝したが、それ以外の種目ではアジア地区でさえ優勝、メダル獲得はなかなか厳しいものがある。そのようなことから、まずはアジアで確実に上位入賞できる力を付けることが必要である。特に、砲丸投、円盤投、女子ハンマー投には頑張ってもらわなければならない。今いる選手を強化することも大切なことだが、いかに投擲選手として素質のある人材を見つけ、陸上競技に引っ張り込むかが大きな課題でもある。海外からも著名なコーチを招聘し、現場の指導者を含め「投擲力」を向上させなければならない。

【混成ブロック】　　混成部長　本田　陽

昨年の陸連時報の抱負にはロンドンオリンピック混成種目代表派遣が最大の目標であると書いたが、右代啓祐選手（スズキ浜松AC）の活躍でその目標は達成できた。それにもまして重要なのはここ数年来強化計画が少なくとも男子においてはほぼ予定通りに（2009年以降の味の素NTCでの陸連混成合宿による男子集中強化、2011年の8000点突破＝日本記録更新・テグ世界選手権出場、2012年ロンドンオリンピック出場、右代選手に続く若手選手の育成など）進んでいることである。今年度は強化体制も一新しリオデジャネイロオリンピックに向けての新たなサイクルの年となるが、混成ブロックでは以前からリオデジャネイロオリンピックを一つのサイクルとして強化計画を進めていたため、ロンドンオリンピックまでを中間点として評価・分析しながら、継続して強化対策を進めていく予定である。

その中で今年の最大の目標は８月にモスクワで行われる世界選手権に出場し本大会で結果を残す（最低8000点以上の記録をマークする）ことと、さらには複数選手の出場（右代選手以外にもう一名の出場）を達成する事である。男子においては右代選手に続く選手（中村明彦選手、辻井亮太選手、音部拓仁選手など）が順調に伸びてきており、１月にドイツで行われたドイツ室内混成選手権にオープン参加した中村明彦選手（中京大学）が男子室内七種で金子宗弘（ミズノ）の室内日本記録（5600点）を17年ぶりに更新する5690点をマークするなど一定の成果が見えるが、今年はそれよりも若い世代の選手（大学１～２年生、高校生）を継続して引き上げて行けるかが大きな課題である。そのためにもこれまで行ってきた味の素NTCにおける男子合宿に若手選手（特にU23対象選手）を積極的に招集することが必要である。昨年のロンドンオリンピック代表選手にはジュニア時代に混成競技に取り組んでいた選手も多数おり、また中村選手のように十種競技の選手でありながら400mHで派遣されるなどの例も見られた。将来的に大きく伸びるためには混成競技を中心とした総合的なトレーニングが有効であることの一例であるが、この逆の傾向（ジュニア時代は複数の専門種目に秀でている選手を混成選手として強化する）を混成競技の選手に適応できるようにしていく事も課題である。

女子では相変わらず中田有紀選手（日本保育サービス）に続く選手の育成が最優先課題であり、なかなか改善できていない状況である。特に大学生選手の強化は急務であるが、そのためにも潜在的な素質のあるジュニア選手（中学・高校で混成競技に取り組んではいないが、将来的に大きな可能性のある選手）をいかに大学生の世代で伸ばしていくかが中期・長期的課題である。

【男子中長距離・マラソンブロック】

男子中長距離・マラソン部長　宗　猛

〈中距離〉

日本人には厳しいと言われ続けていた中距離種目だが、関係者の努力により、2012年ロンドンオリンピックには、メキシコ大会以来44年ぶりとなる800mに横田真人選手（富士通）を代表として送り出した。一次予選３着＋３の４着となり、わずか0.21秒差で惜しくも準決勝進出はならなかったが、この横田選手の走りは、組分等条件が揃えば一次予選通過が可能であり希望の種目となった。これを自信にモスクワ世界選手権に向けては、出場が目的ではなく一次予選突破を目標に、更にレベルの高いトレーニングを実施していくことを期待したい。

〈長距離〉

ロンドンオリンピックは、佐藤悠基選手（日清食品グループ）のみの出場だった。その佐藤選手もペースの変化に対応できずに失速してしまった。

しかし、最近の世界大会は東アフリカ勢に圧倒されていたが、10000mで白人のG・ラップ選手（アメリカ）が銀メダルを獲得したことは、日本人選手もレース展開次第で最後まで諦めずに粘って自己記録を更新する走りができればオリンピックで下位入賞が可能な種目だと考えている。

参加標準記録Aが27分40秒00と高いが、突破可能な若手選手が複数育ってきている。宇賀地強選手（コニカミノルタ）、宮脇千博選手（トヨタ自動車）をはじめとする25歳までの若手選手に勢いがある。もちろんオリンピック代表の佐藤選手には、4年前に出した日本歴代3位の自己最高記録の記録を期待している

3月18日から10日間延岡市で行う強化合宿には、実業団、学生のトップランナーが多数顔を揃えることになっている。それぞれの団体・所属の枠を越えて日本長距離界の発展のために切磋琢磨して、質の高い練習を行って春のトラックシーズンでその結果を出してくれることを期待している。モスクワ世界選手権で、最低12位内を目標にしてほしい。

〈マラソン〉

北京オリンピックで惨敗し苦しい状況だったが、まず一昨年のテグ世界選手権で、堀端宏行選手（旭化成）が持ち味の粘りと安定感で7位入賞を果たした。同大会で終盤追い上げて10位と入賞に届かなかった中本健太郎選手（安川電機）が、昨年のロンドンオリンピックでは、その経験を生かした走りで見事6位入賞を果たしてくれた。モスクワ世界選手権は、比較的良いコンディションでの開催が予想され、高速レースになる可能性が高いと思われるが、入賞を目標にして頑張らせたい。

リオデジャネイロオリンピックで入賞するための重点強化策として、暑さの中での粘りが考えられる。合宿でディベロップメント選手を中心に、暑さに強い心身共にタフな選手の育成を図り、選手選考の参考にしたい。諦めずに最後まで粘り強く走り抜ける選手が選ばれれば、入賞の可能性が高くなる。そのためにも多くの選手が、積極的に合宿に参加することを期待したい。

【女子中長距離・マラソンブロック】

女子中長距離・マラソン部長　武冨　豊

2012年のロンドンオリンピックが終了し、原田強化委員長を中心にリオデジャネイロオリンピックに向けて、女子中長距離・マラソン部長としての重責を留任する事になりましたが、世界の急速なレベルアップに対応出来ず、オリンピックでは北京・ロンドンと2大会連続で女子マラソンの入賞者を出す事が出来ず、その責任の重さを痛感しています。

強化委員長の方針により、リオデジャネイロオリンピックに向け中距離・長距離・マラソングループの連携を密にし、オリンピックを見据えた若手選手の育成・スピードの強化策を共有化し、指導者のレベルアップ・強化対策の継続を計り「Team Japan」としての意識づくりを徹底して取り組んで行きたい。

2013年度の最重要目標として、リオデジャネイロオリンピックを睨んだ課題・目標を明確にし、モスクワ世界選手権では少数精鋭で「Team Japan」として戦えるメンバーで臨み、次の2015年北京世界選手権から、リオデジャネイロオリンピックに繋がる若手選手育成に主眼を置き、継続した強化案を浸透させるスタートの1年として取り組みたい。

中距離では、若手選手の育成が優先課題となっている。今まで培ったデータを下に味の素NTC（味の素ナショナルトレーニングセンター）にて定期的な合同練習を行い、トレーニング内容を共有・確認し、有望選手には積極的に海外（米国等）に行かせ、優秀なコーチの下で、海外選手と合同でのトレーニングを受けるチャンスを支援するなどの強化策を行い、北京世界選手権までには800mの日本記録更新を狙いたい。

長距離は、ロンドンオリンピックに於いて、お互いに協力し好結果を残せた。しかし、福士加代子選手（ワコール）はマラソンへの移行、吉川美香選手（パナソニック）は引退など、リオデジャネイロオリンピックまでには若手の育成が重要な課題となる。2013年度は、U-23を中心に有望な選手の発掘を行い、少数精鋭でナショナルチームとして合同での強化合宿を実施し、アジア大会・世界選手権・リオデジャネイロオリンピックまでの強化を継続して行いたい。

マラソンでは、非常に厳しい現状の中、モスクワ世界選手権代表選手を中心に、リオデジャネイロオリンピックで入賞の可能性のあるタイムを2°22'台と考え、過去の練習（野口みずき選手の練習内容等）を基本にした強化合宿を行い、練習内容の把握に努め、2016年の選考会までに記録突破者（2°22'台）を数名出す一方、ハーフマラソン（1°10'以内）若手選手による強化育成の為の合宿を実施し、両面からの強化を行って行く。

女子中長距離・マラソン、すべての種目に於いて世界と戦っていく上では非常に厳しい状況であるが、女子強化委員全員が目標達成に向け連携して強化を図りたい。

【競歩ブロック】　　**競歩部長　今村文男**

2012年ロンドンオリンピックでは、ブロック目標として掲げた入賞1には届かなったが、森岡紘一朗選手（富士通・男子50km競歩）が自己記録で10位、そして、渕瀬真寿美選手（大塚製薬・女子20km競歩）が11位と女子競歩におけるオリンピック史上最高順位をマークするなど2016年リオデジャネイロオリンピックでの入賞を期待できる逸材が育った大会でもあったといえる。一方、記録面で見るとロンドンオリンピックの結果に象徴されるように近年の競歩種目におけるメダル獲得には世界記録またはオリンピック記録レベルでの戦いが求められている。今年は世界選手権がモスクワで開催されるが、今後も世界選手権開催地は、2015年北京、2017年ロンドンと日本人に比較的有利とされる暑熱環境下で開催されない状況である。また、2016年リオデジャネイロオリンピックにおいても同様の気象条件であると考えるとロンドンオリンピックの結果をひとつのスタンダードと捉え、今後行われる主要国際競技会の目標設定や強化施策を打ち出していかなければならないと

いえる。

そこで、2013年度ブロック強化施策（具体的な強化施策は本誌2013年３月号陸連時報P185を参照）として次の方向性を示し、指導者や競技者の意識改革を徹底させていきたいと考えている。現在、オリンピック、世界選手権などの主要国際競技会で行われている競歩種目は、男女20km競歩と男子50km競歩の３種目である。種目別の現状と課題に違いはあるが従来通りのチーム単位や個人レベルでの強化体制では取り組みの限界があり、ナショナルチームとして強化施策を展開していかなければ、オリンピックや世界選手権における悲願のメダル獲得が難しいと感じている。そこで、ナショナルチームとしての強化の必要性を専任コーチや競技者に理解してもらい競歩ブロック全体が一体感をもって戦略的な強化施策に取り組んで欲しいと考えている。そして、ナショナルチームとしての強化体制を整え、医事科学委員会とも連携を図りながら種目別強化を推し進めていきたい。男子50km競歩は、強化競技者制度のシルバーアスリートに指定されている森岡選手を強化の柱に少数精鋭による月に１度の合同合宿を実施し、複数が世界トップ10入りできるように強化を図り、男子20km競歩においては、高速レースに対応できる歩型確立のために、味の素NTCを活用しながら実践的かつトレーニング負荷を意識した短期合宿を行い、U23を中心とした強化対象者に世界基準の歩型を意識させたい。女子20km競歩は、シルバーアスリートに指定されている渕瀬選手を中心にこれまでの強化策の根幹となっているチームにおける強化に加え、ナショナルチームとしての代表合宿を融合させ実情に見合った強化体制を形作りたいと考えている。

【U23ブロック】　　強化育成部U23統括　麻場一徳

日本陸連の強化体制が一新され、原田康弘強化委員長の下、これまでのジュニア育成部から名称変更された強化育成部の部長に山崎一彦氏が任命された。私は、その強化育成部に新設されたU23部門の統括を任されることとなった。U23部門は、前ジュニア育成部に設置されたU21部門の流れを汲む組織であるが、さらにオリンピックに対する焦点を強めたものと言える。

U23部門では、2016年リオデジャネイロオリンピックで活躍が期待される選手をピックアップし、それぞれの個の力を引き上げることを目的としている。リオデジャネイロオリンピック育成競技者と名づけ、当然、ここにあげられた13名の選手たちにはメダル獲得もしくは入賞を目標に頑張ってもらうことになる。そのためのサポートをあらゆる角度から実施していくことが使命となろう。

我が国の場合、ジュニアで培った競技力をシニアでさらに向上させて発揮できない選手が多いという課題が、常々指摘されている。特に、国際大会で自身の力を遺憾なく発揮できる力をつけていくことが大きな課題となっている。したがって、選手たちの海外での研修合宿や試合参加を積極的に促し、サポートをしていくことが当面の任務であると思っている。４年スパンの前半２年では、そのことを念頭に様々な事業を計画、展開していくつもりである。さしあたって、本年はシーズン前の海外研修合宿、及びシーズン中の海外個人転戦の２つの事業を大きな柱として実施したいと考えている。

これらの事業をスムーズに運ぶためには、当然、シニアの各強化部や学連、あるいはU19部門との連携が不可欠である。これらのグループとの連携を深め、共に協力して、競技力にとどまらず日本を代表する競技者としての自覚と態度を含めて育成していきたい。また、そのための共通理解にも努めていきたいと考えている。

いずれにしても、この部門新設には原田強化委員長、山崎強化育成部長のリオデジャネイロオリンピックに懸ける思いが表されている。話題にするにはまだ早いが、2020年のオリンピックが東京で開催されるという願望のもと、思いを馳せた施策であろう。選手、スタッフ、また関係者が一丸となって大きな夢へ向かって邁進していきたい。

さらには、日本国民の皆さん、とりわけ次代を担う子供たちに夢を持っていただけるような取り組みができたらと思っている。

【U19ブロック】　　強化育成部U19統括　清水禎宏

原田強化委員長就任に伴い、これまでのジュニア育成部から強化育成部へと変更され、更にU19とU23に分けて強化育成を推進することとなった。U19統括の命を受け、身の引き締まる思いである。これは私自身が中・高校の現場を経験してきたことが大きな理由ではないかと考えている。U19の育成・強化には中・高校現場の指導者の理解・協力が不可欠であり、中体連・高体連との連携をより深め、育成・強化を進める必要がある。また、「ジュニア強化指定選手」という名称も「オリンピック育成競技者」とし、より早い段階からオリンピックをはじめとする国際大会を意識させるための名称とされた。

育成方針の大きな柱を、「2020年オリンピックでメダル及び入賞できる競技者の発掘･育成」とし、以下の5つの項目に則って強化育成を推進する。

1. U23育成、中体連、高体連との連携を深め、競技者育成が好循環するように努める
2. U15、U18研修合宿を実施し、普及育成委員会と共にタレント発掘と育成をしていく、また、中体連、高体連との連絡協議会を実施し、育成方針の共通理解を深める
3. ジュニアクリニック、技術講習会などの指導者研修などを通して、指導者育成を図るとともに基礎技術や指導方法の伝達を幅広く実施する
4. オリンピック育成競技者を選定し、将来的に日本代表選手として活躍するための態度や技術を指導していく
5. 競技者、指導者が共に、世界的視野に立った夢を共有する

以上の育成方針を推し進めるために、数多くの指導者実績や国際大会に出場するなどの豊富な経験を持つ指導スタッフを招集できた事は非常に心強く感じている。若い競技者を育成するには、記録・競技力の向上はもちろんのこと、日本を代表する選手としての人間形成や国際感覚を身につける必要が

ある。個々の選手に応じた技術的なアドバイスや合宿・遠征での競技者としての生活指導もスタッフと共に行いたい。すでに11月、1月、2月の合宿が終了し、11月は自己の現状把握のためにJISSでの科学的な測定を実施、1月は味の素NTCでの基礎・基本を重視したトレーニングやインタビューの受け方などのメディアトレーニング（英会話を含む）、人間関係をより強固にするためのコミュニケーショントレーニングなどを研修、2月は沖縄での専門的なトレーニングや食事の選び方などの栄養指導やコンディショニングを指導するなど、選手がシニアの選手へと主体的に成長することを期待する内容である。

山崎一彦強化育成部長を中心にスタッフ一同、中・高校生の育成に尽力したい。

第8回世界ユース陸上競技選手権大会（2013／ドネツク）日本代表選手選考要項について

2013年7月10日～14日に開催される第8回世界ユース陸上競技選手権大会（2013／ドネツク）の日本代表選手選考要項について、下記にてお知らせ致します。

大会期日：2013年7月10日（水）～7月14日（日）

開 催 地：ドネツク（ウクライナ）

1．参考競技会

（1）トラック＆フィールド種目

1）第66回全国高校総体陸上競技大会都道府県及びその支部予選会（2013）

2）第66回全国高校総体陸上競技大会ブロック予選会（選考会議前日まで）

3）2013年日本グランプリシリーズ各大会（2013）

4）第97回日本陸上競技選手権（2013／東京）

5）第61回兵庫リレーカーニバル（男子3000m、男子2000m障害物、女子2000m障害物のみ）

（2）競歩

1）第24回　ジュニア選抜競歩大会（2013／神戸）

2）第52回　全日本競歩輪島大会（2013／輪島）

3）第66回全国高校総体陸上競技大会都道府県及びその支部予選会（2013）※女子5000m競歩のみ

4）第66回全国高校総体陸上競技大会ブロック予選会（選考会議前日まで）

2．選考基準

（1）トラック＆フィールド種目

1）参考競技会において強化育成部が定めた派遣設定記録を突破した競技者。

2）参考競技会以外の競技会において派遣設定記録を突破した競技者で、本大会での入賞が期待される競技者。

3）リレー種目の代表選手選考は、種目の特性を考慮する。

4）強化育成部が特に推薦する競技者。

（2）競歩

1）参考競技会において強化育成部が定めた派遣設定記録を突破した競技者。

2）参考競技会以外の競技会において派遣設定記録を突破した競技者で、本大会での入賞が期待される競技者。

3）強化育成部が特に推薦する競技者。

3.　選考方法

選考基準に則り全ての参考競技会終了後、選考委員会において選考する。

4．補足

（1）種目毎の代表はIAAFエントリールール以内の人数とする。

（2）本大会までに故障等により、競技力を発揮できない事態が生じた場合は代表を取消すことがある。

第61回兵庫リレーカーニバル　オープン種目申込要項（ユース男子3000m・ユース男子2000m障害物・ユース女子2000m障害物）　※第8回世界ユース陸上競技選手権大会（2013／ドネツク）選考競技会

1．日程・種目

2013年4月20日（土）　男子2000m障害物・女子2000m障害物

2013年4月21日（日）　男子3000m

2．参加資格

下記の（1）、（2）の条件を満たし、本連盟登録者であり、日本国籍を有する競技者（日本で生まれ育った外国籍競技者を含む）を正式参加者とし、外国籍競技者はオープン参加とし順位はつかない。

（1）1996年1月1日から1998年4月1日の間に生まれた競技者　※ただし、世界ユース選手権参加資格は、1996年、1997年生まれの競技者のみ。

（2）2012年1月1日から申込締切日の間に、下記の参加標準記録に到達した競技者。

（3）日本陸上競技連盟強化委員会強化育成部の推薦競技者。

（4）競技運営上困難が生じた場合は上記の参加資格を有する競技者であっても参加を制限されることがある。

3．参加標準記録

種　目	参加標準記録
男子3000m	3000m: 8'40"00／5000m: 14'45"00
男子2000m障害物	1500m: 4'05"00／3000m: 8'50"00／3000m障害物: 9'30"00
女子2000m障害物	1500m: 4'32"00／3000m: 9'40"00／3000m障害物:11'00"00

4．参加料・申込方法

兵庫陸協ホームページ内の第61回兵庫リレーカーニバル開催要項内の申込方法をご確認ください。（http://www.haaa.jp/）

なお、申込用紙は、日本陸連2013日本グランプリシリーズ大会情報からダウンロードして下さい。（http://www.jaaf.or.jp/athlete/grandprix2013）

第13回JAAFコーチング・クリニック、第14回JAAFコーチング・クリニック報告

普及育成委員会　櫻田淳也

【第13回JAAFコーチング・クリニック】

第13回JAAFコーチング・クリニックを、2013年1月26日に東京の味の素ナショナルトレーニングセンターで行った。受講者は94名であった。クリニックは講師に水野信人先生（浜松市立天竜中学校コーチ）と田内健二先生（中京大学）のお二人をお招きして行った。ともに、講義および実技を行った。

○第一部　水野信人先生（浜松市立天竜中学校コーチ）

水野先生の講義では、「心の教育を最重点に」置くことなど、校長として、また外部コーチとして中学生の指導を行うにあたっての心構えなどの話があった。その後、中学生の陸上競技の指導について、「心の育成」、「体力の向上」、「走技術の習得」とわけて話があった。練習内容は、体力については「筋力パワー」、「柔軟性」、「敏捷性巧緻性」、「スピード」、「持久力、有酸素」と分類し、技術については「走基本Ⅰ～Ⅲ」、「各専門種目」とわけてトレーニング内容の詳細について説明があった。また中学校ならではの課題として、練習時間の確保が難しい中での工夫された週間計画についても紹介された。指導者として大切にしたいこととして、「情熱こそ命」、「謙虚に学び続ける」、「目標は高く明確に掲げる」、「心・技・体の育成」をあげ、それぞれについてお話をいただいた。最後に全日本中学選手権で優勝した有川湧貴選手（800m）と天城帆乃香選手（走幅跳）の指導にあたって配慮していることなどが紹介された。

実技では講義で紹介された「走基本Ⅰ」、「走基本ⅡA」、「走基本ⅡB」、「走基本Ⅲ」を中心に、実際の動きを有川選手と天城選手をモデルにして行われた。

水野先生の講義の様子

○第二部　田内健二先生（中京大学）

田内先生の講義では、ディーン元気選手のトレーニング実践報告を中心に講義が行われた。講義内容は、「Ⅰ．コーチとしての観点」、「Ⅱ．各年度におけるディーン選手の評価および強化方策」、「Ⅲ．今後の強化方針」と大きく分類して行われた。「コーチとしての観点」については、「1．やり投競技者としての経験知」、「体力的観点」、「技術的観点」と分けて話があった。膨大な量のやり投競技者の分析から、世界トップレベルの技術を把握した内容なども紹介され、それが実際にディーン選手の指導にどのように活用されたかなどについても具体的な資料提示のもと、説明が行われた。

実技では、やり投のパフォーマンスに直結するトレーニングとして、メディシンボールを用いたトレーニングがいくつか紹介された。また実際スローイングの中で、トレーニング手段や講義で話のあった技術的観点についての説明があった。

水野先生、田内先生ともに、講義および実技を行っていただいたが、お二人とも内容が理路整然としており、講義および実技内容ともに非常に分かりやすく、受講生には大変好評であり、また現場の指導に直結する内容で内容の濃いものであった。

田内先生の講義の様子

【第14回JAAFコーチング・クリニック】

第14回JAAFコーチング・クリニックを、2013年2月9日に神戸の株式会社アシックス本社で行った。受講者は81名であった。クリニックは講師に杉井將彦先生（浜松市立高校）と河野裕二先生（広島市立三和中学校）のお二人をお招きして行った。ともに、内容は講義であった。

○第一部　杉井將彦先生（浜松市立高校）

杉井先生は、進学校である浜松市立高校をインターハイ常連の強豪校にしたチーム作りやトレーニング方法についての講義をしていただいた。浜松市立高校ではチーム目標として「STAR」（S：Sportsmanship正々堂々と

している、T：Teamwork協力・協調、A：Attitude態度・姿勢、R：Respect尊敬・尊重）を設定し、自主性を重んじたチーム作りを行われているとのことであった。同じトレーニング手段でも、ちょっとした工夫をすることで、選手が楽しく頑張れるトレーニング手段になるといったお話があり、常に新しいやり方を追求されている姿がうかがえた。無農薬のりんごの生産に成功した農家のお話を例えに出され、マニュアルに頼らず、選手をじっくり観察することの大切さを強調されていた。

また現在は短距離選手の活躍が目立っているが、前任校の浜松商業高校時代には、全国高校駅伝で２位になるという実績もお持ちであり、また混成競技選手の指導など陸上競技全般で実績を残されていることから、練習を考える上でのヒントなども幅広く紹介していただいた。日頃の指導における体験談などをまじえながらの講義であり、内容は現場の指導に即役立てることができるものであり、受講生からも多くの質問が寄せられ、内容の濃いものであった。

杉井先生の講義の様子

○第二部　河野裕二先生（広島市立三和中学校）

河野先生は、為末大選手を中学校時代に指導された。為末選手を指導するにあたり、どのようなことを考えて指導されていたかという経験談とあわせて、小学生、中学生の指導に必要な、指導者の考え方について、ご講演いただいた。

河野先生は、為末選手が中学生時代にすでに世界で活躍する可能性がある素質を持つ選手だと感じ、そのために将来世界で活躍するために中学生時代にどうしたら良いかという視点で指導方針を立てられた。具体的には、競技人生に影響を及ぼすような重大な怪我をさせずに高校へ送る、全力で走らせず余裕を持って走らせる、短距離に特化せず色んな種目を楽しくやらせて好きを進化させる、教え込み過ぎず自分で考えながら練習できるようにさせる、受容し、ほめ、友達と仲良くさせる、ということをポイントに指導されたとのことであった。

また、そうした経験から、ジュニアの指導に必要なポイントとして、選手に遠い先を見させること、指導者も遠い先を見ようとすること～目標を自分事化させること～、選手にやる気を起こさせる工夫をすること、選手の発育発達段階を意識した指導をすること～全ての指導は個別性の原則によること～、選手の発掘は小学生からと肝に銘ずることを挙げられた。

一貫指導的考え方の中で、中学生時代にどのように選手と接し、育成していくかの心構えについて、ご講演いただき受講生からも質問が寄せられ、内容の濃いものとなった。

また、今回ご講演いただいた両講師とも、選手に寄り添い、よく観察し、そこから得られる情報を最大限に活用されている姿がうかがえた。

昨今、指導者の体罰問題がクローズアップされているが、指導者にはアスリートファーストの考え方に再度立ち返って、自分の指導を見直す必要があることを再認識した。

河野先生の講義の様子

コーチング・クリニックの受講生

2012年度 全国競技運営責任者会議報告

競技運営委員長　吉儀　宏

標記会議を、2013年２月９日（土）～10日（日）の２日間にわたって味の素ナショナルトレーニングセンター（味の素NTC）にて開催した。

以下、日程に従って、この会議の内容を報告する。

第１日目（13：00～17：00）

１　開会挨拶　　専務理事　尾縣　貢

ロンドン･オリンピックの視察で、競技レベルの高さ、熱狂的な観衆、競技運営の素晴らしさを感じた。オリンピックが東京に来た際に、盛り上がるよう強化に進み始めている。

日本の競技運営レベルは世界に誇れると自負できる。これはまさしく皆様の努力の成果。今後も「Athlete first」を合言葉にご協力をお願いしたい。

理事・競技運営委員長　吉儀　宏

この会議は日本陸連の重要な会議。競技運営は世界の最先端を行っている。北海道から沖縄までオリンピックと同じレベルの競技運営ができる。皆様に感謝している。

JTO報告にあるように主管陸協に対する改善要望は史上最少であった。ルールの修改正を鈴木審判部長より説明するが、各地に持ち帰り周知伝達をお願いしたい。

２　事務連絡　　審判部幹事　梶田　茂

資料確認等。

３　競技会問題事例報告

（日本選手権：大阪）

観客動員を求められた。初日は雨天で伸び悩んだが、2日目3万人超、3日目2万人超の観客が集まった。夕方から夜の時間帯での競技運営は、観客動員に貢献したと思われる。

（全国高校：新潟）

高体連中心とはいえ中体連等の協力が中々うまく行かなかった。気温が34℃の状況下のため競技者・審判が倒れる事態が発生した。特に女子の5000ｍの見直しが必要。

（全日本中学：千葉）

施設・環境面で足りない部分は関係各位の協力でクリアした。

（国民体育大会：岐阜）

審判は養成事業を行ったが若い人より高齢者の割合が高く、学校職員の割合が高かったが出席率がある程度確保できた。

（ジュニア・ユース：愛知）

スタートを目視でやっているが、基準を統一しながら行っている。

４　2012年度JTO活動総括　　審判部委員　中島　剛

2012年度におけるJTO指摘事例は過去最少となったものの、依然、抗議事案はリレーとスタート関連で前年同等の件数が発生している。今回はトラブル事例の共有ではなく、JTO活動報告の中から競技会運営のヒントになる事柄を挙げて情報共有した。

５　競技運営委員会全国研修会報告

審判部幹事　岩崎義治・競技部幹事　赤峰俊彦

審判部は「イベントプレゼンテーション」、競技部は「大規模マラソンを巡る諸問題」を中心に研修を行った。

６　2013年度競技規則修改正案　　審判部長　鈴木一弘

大きな修正点はない。IAAFより若干の修正とスタートに関する修正が中心。

スタートに関して、国際大会出場に関わる競技会では陸連ルールを適用しておく必要が生じる。

世界記録と日本記録は、従来260条に併記されていたが、新たに未使用の265条を日本記録として、移動する。

公認申請書の記載事項から、気象状況を削除する。ただし、サービスとして観測、情報提供は続けてもらいたい。

競歩競技の日本記録公認には少なくとも１人のJRWJの署名を必要とする。

７　スタート動作に関するIAAFと日本の対応

競技運営委員長　吉儀　宏

2012年３月にIAAF　Referee2012が発行された中で「スタート行為の開始の解釈」が出てきたが、直ぐに国内適用することには問題が多いので、１年間検討し、本日「スタート動作の判定に関する日本陸連統一見解」を提案したい。

今後は、セットの後「ピクッと動いた場合」はピストルを撃つ前も撃った後も「不適切行為」として警告に留める。不正スタートは警告対応を除き「正当な理由も無く、信号器の発射を認識する前に、競技者の足がブロックから、あるいは手を地面から離してスタート動作を開始したと判定した時」とする。

８　スタートの状況　　審判部委員　鎌倉光男

不適切動作の具体例およびスターター合図、チェックポイントの基本を確認。

９　第１日目質疑応答

Q（熊本）：スタート時の不正１回失格は「すべての競技会」ではないのか？「他の大会は各陸協に任せる」との認識はなかった。日本陸連の方向性はどうなのか？

A（吉儀）：「英語」は「1回失格」とセットになっている。日本陸連主催共催以外は、強制はしないが「すること

が望ましい」。（スタート動作に関する日本陸連統一見解は承認された。）

10　事務連絡　　審判部幹事　梶田　茂

明日の集合時刻、分科会会場の説明、名札、荷物の扱い等。資料の追加頒布等。

第２日目（９：00～12：20）

（分科会：審判部）

１　公認審判員昇格審査結果について

審判部幹事　梶田　茂

問題点の確認および、今年度より、JAAFの割印を押した手帳を贈呈した。

２　不正スタート・警告時の対処行動、競技者に対する出発係の対応　　審判部副部長　黒澤達郎

不適切行為の定義。国際大会（国際ルール）と陸連委員会の考えとの相違について説明した。

不正スタート・不適切行為以外の対応（グリーンカード）例の解説を行った。

３　質疑応答

Q（福井）：２回目失格ルールで、同一選手が不正１回、不適切１回のケース。

A（黒澤）：警告とする。

（補足）不正スタートに関する記録表を１年間使用していただき、反省（問題点）を挙げて欲しい。

（吉儀）混成競技の旧ルールはもうやめたい。会場から同意。

（分科会：競技部）

１　開会挨拶　　競技部長　阿保雅行

競技部会では、資料にあるとおり、４つの議題についてお話しをさせていただく。皆様からいろいろなご提案をいただけたらと思う。

２　競技会開催の申請　　競技部委員　小澤清治

公認競技会日程の陸連ホームページは、陸上関係者だけでなく報道関係者や父兄・ファンの皆様等多くの人が見ている。そこで2012年度の申請状況を基に特に注意を要請した。

３　記録データの申請　　競技部幹事　赤峰俊彦

記録のデータ申請をすれば、それのみの申請をしたとみなす。その際、ハードル・投てき物の規格、選手区分の明記など注意していただきたい。

陸上競技マガジン編集長　高橋克実

データ申請の手続きを行っていない都道府県については、是非手続きを行って欲しい。

４　日本記録の申請　　競技部幹事　杉本太郎

日本記録申請の際の注意点について（予選・決勝で出た際は両方申請、必要書類、期限など）説明があった。

５　記録用紙の変更　　競技部副部長　伊地知重信

競歩審判集計表、走高跳／棒高跳、走幅跳／三段跳、投てき競技、監察員記録用紙、記録公認申請用紙から気象状況を削除、日本記録申請用紙に気象状況を削除、競歩にJRWJを追加、日本記録申請（混成）から気象状況を削除、不正スタート記録用紙を改訂、略語・略号および略号例等（特に）など、競技規則に合わせた記録用紙の変更を説明。

６　質疑応答

Q（岐阜）：競技場の公認が取れるということで準備を始めたが、公認が取れなかった場合はどうする。

A（小澤）：公認競技会として認められないので、訂正の連絡をしてほしい。

（全体会）

１　市民マラソン・ロードレース運営ガイドライン

プロジェクト委員　関根春幸

11月の研修会での関連内容を解説。研修会での討議も踏まえて検討してきた。

あくまでもガイドラインであって強制ではない。今後も検討して改善して行く方針。

プロジェクト委員　宮田英明

神奈川県での実際の市民マラソン大会への参加による事例紹介（参加者要項披露）。

（質疑応答）

Q（徳島）：仮装の件、公認大会であっても主催者の判断とするのか？

A（吉儀）：大会によっては「仮装の部」というものがあり、一概に認めないということにはいかない。ただ、他の競技者に危害を加えるものについては控えていただきたい。

２　両部会決定事項報告

競技部長　阿保雅行・審判部長　鈴木一弘

両部、分科会での決定事項について説明。

３　全体質疑応答

Q（石川）：審判長が記録用紙を確認し、記録情報から差し戻しということがある、記録用紙を回す順番について、ルール化しないのか？

A（鈴木）：特にルール化しているものはない。記録主任が先にサインをしても良いのでは？

４　コメンテーターより　　特別委員　藤田幸雄

２日間お疲れ様でした。今回の内容を是非地元に持ち帰っていただきたい。

５　事務連絡　　審判部幹事　梶田　茂

資料頒布、昼食等の連絡。

６　閉会挨拶　　理事・競技運営委員長　吉儀　宏

各都道府県陸協の努力で、素晴らしい競技運営ができていることに感謝申し上げる。

3000mSCの障害の設置、スタートの所作について、地元に戻りデータを確認の上、４月を迎えていただければと思う。

2012年度 全国検定員会議報告

施設用器具委員会　平塚宣信・米岡利昌

日　時：2013年２月　10日（日）13：00～17：10
　　11日（祝・月）９：00～13：00
場　所：横浜市スポーツ医科学センター会議室（日産スタジアム内）
出席者：施設用器具委員会委員（13名）
　　都道府県推薦検定員（46名）
　　技術役員：神奈川（２名）、東京（１名）
　　陸連事務局（４名）

施設用器具委員会では、全国検定員会議と全国区域技術役員会議を隔年で開催しており、2012年度は検定員会議を開催した。検定員は各都道府県陸協より46名が推薦（新規12名）され、２日間の会議に参加した者が2013・2014年度の検定員として活動していくことになる。以下は２日間の会議の概要である。

【第１日】　　司会（福島委員）

◇配布物…全国検定員会議資料冊子
※テープキャッチャー　※各県で引き継いで使用。検定員が変わったら次の人へ。

◇開会のことば（平塚副委員長）……（要約）
12名の新規検定員が推薦されている。技術役員からの昇格であり、しっかりと講義を聞いて欲しい。また検定要項の改訂を予定している。意見をしっかり出して欲しい。

◇挨拶（小池委員長）……（要約）
しっかりと勉強していただき、公認競技場を維持できるようにしてもらいたい。

・会議

１．検定員としての規定への対応（小池委員長）
「第１種・第２種公認陸上競技場の基本仕様を適正に運用するため、2017年４月以降現在のＢ競技場は規定に合致しなければ降格する。」ことの確認。また、その他の規定（第３種競技場要件・第4種競技場の欠くことのできる施設・第３種の写真判定装置について・開催可能な競技会の種別・申請手続きについて・クラス１クラス２について等）の確認・意見交換がなされた。

２．報告時提出書類等の確認事項（鈴木副委員長）
何度も同じことを確認しているが、なかなかミスがなくならない。しっかりと確認して欲しい。陸上競技場・長距離競走路実測報告書において記入ミスの多いところを再確認。また、公認に関する確認事項・条件付き・保留競技場の扱いについて説明がなされた。

３．公認競技場の基本仕様の取扱・陸上競技場公認に関する細則への対応（高木委員）
基本仕様制定後18年経つが、基本使用に合致しない競技場がまだ存在する。第１種・第２種のＢ競技場は2017年３月末に自動的に降格となる。Ｂ競技場とする項目・基本仕様・第４種競技場の欠くことができる施設の解釈・レーンマーキングについて等の再確認がなされた。その後助走路の厚みに関して・芝の長さについて・第１種競技場の補助競技場としての第３種競技場について・砲丸投の扇形について等、８名の検定員から質問や意見が出され、活発な意見交換が行われた。

４．検定要項改訂等に伴う検討会（苅込委員）
テーマを「①検定要項の改訂②規定等の検討③検定の地域での課題④その他用器具や陸上競技場・長距離競走（歩）路に関すること」に絞り、事前に全国の検定員から出してもらった意見を元に意見交換をした。走路の厚みの確認について・コースの高低差・直線距離を出すときのネット使用について・報告書等の表計算ソフトの使用について・付帯投てき場について・マラソンコースのコース幅について財政難による改修の困難さ・大規模大会の用器具貸し出しについて・自転車計測員の育成が急務であること・レーン幅の計測方法について等、述べ25名が発言し、活発な意見交換となった。

◇事務連絡（福島委員）
～終了～

【第２日】

５．検定に関する課題及び問題点（大島幹事）
検定に関して、指導内容の統一・レーンマーキングの扱い・検定メジャーについて・内水濠外水濠について・投てき可能な人工芝への対応・レーン幅1.220mへの移行・保留・条件付き事例の増加・舗装材についての問い合わせ・逆走について・第３種競技場のレーン数について・主な修正の事例について等の課題や問題点の説明がなされた。

※試作中の検定用メジャーについて（高木委員）
現検定用メジャー作成から20数年経った。現在業者に検定用メジャーの作成を依頼している。現メジャーと比較しても概ね信頼できるものが作成できそうである。新メジャーは目盛りをメジャーに印刷する形で作成。テンションも10kgから100N（ニュートン）となる。それに合わせてスプリングバランスも新たに作成し配布予定。メジャー番号

はメジャーに金属板を貼って表示する。来年度中にはお届けできるといいと思っている。

6．長距離競走路検定における課題及び問題点（平塚副委員長）

施設用器具委員会日程の確認。委員会の日程に合わせて報告書を提出のこと。検定の流れの確認。各陸協・申請者によく伝えるように。申請書様式の改訂について。申請者の氏名の他に「連絡担当者」を記入する欄を設けた。必ず記入をするようにとの確認。

検定制度の歴史・世界記録・日本記録の条件・公認の条件（セパレーション・エレベーション）・マラソンコースの検定・計測・IAAF認証について・継続マラソンコースの検定について・マラソンブームについて・競歩路コース検定等についての説明がなされた。また公認証作成時に困るのでコース名・スタートフィニッシュ地点等をしっかり確認して記入して欲しいとの注意がなされた。

説明後質疑が行われ、競歩路の折り返し点に関しての確認・注意が行われた。

7．IAAF施設マニュアルについて（陸連事務局　関氏）

陸上競技場を作るための詳細が記載されたIAAF施設マニュアルについての説明がなされた。ルールブックを簡潔にするため、施設マニュアル・レフェリーという冊子に詳細を分けて記入してある。現在翻訳版を作成中である。

IAAF競技場承認（クラス１・クラス２）についての説明がなされた。取得のメリットは、記録が世界記録・世界ジュニア記録として公認されること・国際大会が実施できること・世界レベルの競技場としてアピールできることなどがある。デメリットは、世界記録が出るような競技会・国際大会を開かないならば必要がないこと・レーンマーキングが日本のものと異なること・別途検定料・作業料がかかることなどが挙げられた。

また国際的に投てき可能な人工芝が注目されていて、認証するための基準作りをしていること。現在日本では第4種競技場のみ人工芝が認められているが、今後の世界の動きに注目し、検討していくことが必要であることが紹介された。

◇感謝状贈呈

長年検定員として尽力された揚妻検定員に、感謝状・記念品が贈呈された。

◇挨拶（小池委員長）

◇閉会のことば（鈴木副委員長）

２日間の会議を経て、2013・2014年の検定員として認められることになった。それぞれ地元に戻って無事終了したことを報告してもらいたい。また、健康には十分留意していただきたい。

◇事務連絡（福島委員）

～終了～

全国検定員会議の様子

アジア陸連理事会報告

理事・国際委員長　田中 克之（アジア陸連副会長）

2013年1月26日、アジア陸上競技連盟（AAA）理事会がインドのニューデリーで開催されたところその概要は以下の通りである。

今回の理事会では特別の決定が行われたわけではないが留意すべき点は、①今夏チェンナイ（インド）で開催のAAA総会で会長、副会長や理事の選挙が行われるが当選者の任期は4年ではなく2015年のIAAF理事選挙までの約2年となること（IAAF理事任期と地域陸連理事任期を同調させるため）②チェンナイでのアジア選手権の大会期間は7月3～7日の5日間となること（午前中は36度まで気温が上昇するためインド陸連が競技時間は夕方の時間帯のみにすることを強く希望しているため）の二点である。

1．出席者

（1）韓国とマレーシア選出の理事を除く全員が出席

（2）国際陸連（IAAF）からディアック会長が出席

（3）理事会開式時のみインド陸連のスマリワラ会長が出席

2．挨拶

（1）冒頭、スマリワラ・インド陸連会長より「共和国記念日（日本の憲法記念日に相当）にニューデリーでAAA理事会を開催できることを名誉に思う。有意義な会議になることを期待する」との挨拶。

（2）続いてカルマディAAA会長から「英連邦大会の機材調達問題に関連しインド国内の政争に巻き込まれてしまったため会長としての職務を全うすることが出来ず申し訳なかった。ただ近々自分の身の潔白が証明されることになるはずである。そうなればAAAに対しても十分時間が割けることになる」「アジアグランプリはこれまで1カ国の3カ所で開催されてきたが、今年の大会はバンコク（タイ）、コロンボ（スリランカ）、チェンナイ（インド）と異なった3カ国の都市で開催される。今後この大会は東南アジアや南アジアに限らず、その他の地域の国でも実施されるようになることを強く期待したい」「アジア選手権は1973年にフィリピンで第一回大会を開催してから今年で40年になる。この間インドは89年にニューデリーで同大会を開催したが，今年はチェンナイでインドとして2度目の大会を開催する。出来るだけ多くのAAA加盟団体が参加するよう期待している」と述べた。

（3）最後にディアックIAAF会長から「アジアの陸上競技の発展如何が今後の世界の陸上競技に大きな影響を与える」「学校教育にどのように陸上競技を取り込んでいくかということが今後益々重要になる」「自分はIAAFの権限を地域陸連に移すといういわゆる分権化に力を入れてきた。その観点からIAAF理事の選出を地域陸連に任せるという案をIAAFの場で議論してきたが、残念ながらこの考え方は現在の理事の受け入れるところとはならなかった。この問題は自分の後任の会長に委ねることにした」との話があった。

3．前回理事会議事録の承認

（1）一理事からの「前回議事録では『2011年にIAAFから活動が不活発であると認定された朝鮮民主主義人民共和国陸連（以下、PRK）にニコラス事務総長が同陸連の現状を照会する』となっているが照会結果はどうであったか」またシンガポール企業とAAAとの間でスポンサー契約を結ぶ権限を事務総長に与えたがその後契約は締結したのか」との照会に対しニコラス事務総長から次の通りの回答があった。

（イ）PRKの活動状況の詳細は同国陸連新事務局長より「今年のチェンナイでのアジア選手権には選手10人ほど派遣したいと考えているが、経費の捻出に苦労している。AAAからの支援は受けられないだろうか」との照会が来ている。

（ロ）シンガポール企業は自社の宣伝をしたいだけの目的であった。従って契約にも至らなかった。

（2）以上以外の質疑応答はなく前回理事会議事録は原案のまま承認された。

4．開催済み大会報告

この議題の下で①アジアグランプリ（2012年5月8、11、14日にタイのバンコク他2カ所で開催）②アジアジュニア（2012年6月9～12日、スリランカのコロンボで開催　③アジアオールスター（2012年6月30日～7月1日、カザフスタンのアルマティで開催）について報告が行われた。

5．2013年開催予定大会の進捗状況報告

この議題の下で、①アジア選手権マラソン（香港、2月24日）②アジア選手権20km競歩（日本・能美、3月10日）③　アジアグランプリ（バンコク、コロンボ、チェンナイ、5月8～16日）④アジア選手権（インド・チェンナイ、7月3～7日）についての報告・審議が行われた。

この中で、アジア選手権についてはインド陸連よりパワーポイントを使用し会場となる競技場の施設内容等について説明が行われた。説明の中で理事の関心を引いたのは大会日程であった。昨年の理事会での合意では「7月1日理事会、7月2日総会、7月4～7日選手権大会」となっていたが「6月30日理事会、7月1日総会、7月3～7日選手権大会」と大会期間が一日多くなり，その分理事会・総会は一日前倒しの日程が提案された。

田中から「前回の神戸大会は大会期間を4日間としたがこれは大会運営の効率化、経費の削減に繋がったと自負している。何故5日間の日程に戻すのか、主催国は勿論参加国側にとっても経費負担が増すのではないか」と説明を求めた。またディアックIAAF会長からも「説明の中には競技スケジュールの話が全く無かったが、競技スケジュールの話もしないで競技期間を決めることも出来ないのではないか，更に競技スケジュールは理事会の承認事項であるのでインド陸連は早急に具体案を示す要がある」との強めの指摘が行われた。これに対しインド陸連側より「チェンナイの7月初めの午前中の気温は36度前後である上、湿度も高く競技を実施するには不適当と判断し、全ての競技を涼しくなる夕方以降に実施すべきだと判断したためである」との回答があった。ニコラス事務総長からは「アジア選手権規定によれば大会期間は6日間を超えなければOKである。経費負担については主催国側は大会期間が長くなれば経費負担が増えるが参加国は必ずしもそうでない。主催者負担枠を超える選手役員を派遣する国は大会期間が延びれば負担経費が増えるが、枠内に収まる国は経費負担が生じない」とのコメントがあった。

他方インド側は競技スケジュール案も未作成であり、今回の理事会で協議することは困難であったため、「別途メールで協議する。大会期間は取りあえず5日間としてとり進める」ということになった。

6．アジア陸連憲章の改正

（1）2011年のIAAFテグ総会の際にIAAF憲章を改正し「IAAF理事に席を占める地域代表は当該地域陸連の会長とする」「各地域陸連の会長及び当該地域陸連理事は4年毎に選挙で選ばれるものとするが，その選挙はIAAF役員選挙総会と同じ年に同総会よりも前に実施しなければならない」「IAAFの理事に席を占める地域陸連の会長の任期は4年間としその任期開始時期はIAAF理事の任期開始時期と同一とする」「地域陸連の会長が辞任その他の理由で不在となった時には，当該地域の陸連理事会は同会長の代わりを選出もしくは任命する」ことにした。

（2）今般の理事会で以上の改正を受け入れるためAAA憲章に必要な修正を施すことが合意された。この結果「次回のAAA役員選挙は2013年の総会で行うこととし、会長を含む理事の任期はIAAFが次回選挙を行う2015年総会までとする」ことになった。

大会観戦ガイド

“日清食品カップ”
第15回全国小学生クロスカントリーリレー研修大会

全国から小学生の精鋭たちが大阪に集結！　一生懸命走る金の卵たちに、大きなご声援をお願いします！

▼日時：３月16日（土）～17日（日）

▼会場：大阪・池田市民文化会館（アゼリアホール）、大阪・万博記念公園特設コースほか

▼アクセス：

阪急線：南茨木駅、山田駅、蛍池駅

地下鉄御堂筋線（北大阪急行線）：千里中央駅

地下鉄谷町線：大日駅

京阪本線：門真市駅から大阪モノレール万博記念公園駅もしくは公園東口駅

JR線：茨木駅からバス

阪急京都線：茨木市駅からバス

▼種目：チーム対抗クロスカントリーリレー

レーススタート　３月17日（日）　11：20

全国50チームが参加、６区間の総合タイムで順位を決定。１・３・５区が女子選手、２・４・６区が男子選手。

◇研修会　３月16日（土）

全国50チームの指導者、選手を対象に、特別講師ならびに日本陸連指導者による講習・研修会を実施する。

▼出場チーム：各加盟団体の推薦を受けた、全国47都道府県から各１チームと開催地（大阪）から３チームの、合計50チームが出場。

▼問合せ：日本陸上競技連盟事務局

担当：鈴木・西・額田

TEL03-5321-6580／FAX03-5321-6591

▼日本陸連HP内大会ページ：

http://www.jaaf.or.jp/taikai/1022/

第97回日本陸上競技選手権大会50㎞競歩
第52回全日本競歩輪島大会
兼第14回世界陸上競技選手権大会
（2013／モスクワ）代表選手選考競技会

８月にモスクワで開催される世界選手権の代表選考会を兼ねる本大会。『日本代表派遣設定記録３時間45分06秒を満たし、優勝』したら代表内定！　代表の座を巡りトップ選手が集結します！

▼種目・スタート時間：

４月20日（土）	全日本競歩輪島大会		
	女子	10㎞競歩	13：00
	男子	10㎞競歩	13：05
４月21日（日）	日本選手権	50㎞競歩	07：30
	全日本競歩輪島大会		
	男子高校１・２年	５㎞競歩	10：30
	男子高校	10㎞競歩	11：40
	女子高校１・２年	３㎞競歩	09：00
	女子高校	５㎞競歩	09：30

▼コース：輪島市文化会館周回コース・日本陸上競技連盟公認競歩コース（１周２㎞の周回コース）

▼アクセス（石川県輪島市文化会館付近）：石川県輪島市文化会館は「道の駅 ふらっと訪夢」前

「道の駅 ふらっと訪夢」へは能登空港からふるさとタクシーを利用。能登空港発着便に合わせて利用可能（要予約）。運賃一律700円（１人／片道：輪島市内）

予約先：港タクシー株式会社　TEL0768-22-2360

▼問合せ：輪島市教育委員会生涯学習課内

日本選手権50㎞競歩・全日本競歩輪島大会

実行委員会事務局

TEL0768-23-1176／FAX0768-23-1129

▼日本陸連HP内大会ページ：

http://www.jaaf.or.jp/taikai/1078/

第15回長野オリンピック記念
長野マラソン

▼日時：４月21日（日）　８：30スタート

▼コース：長野オリンピック記念長距離競走路（スタート：長野市吉田・長野運動公園、フィニッシュ：長野市篠ノ井東福寺・長野オリンピックスタジアム）

▼アクセス：

長野運動公園：JR篠ノ井線「北長野駅」より徒歩15分

長野オリンピックスタジアム：JR篠ノ井線「篠ノ井駅」より徒歩30分

長野駅・篠ノ井駅よりシャトルバス

▼問合せ：長野オリンピック記念長野マラソン大会組織委員会事務局

TEL026-234-6380／FAX026-234-6381

（受付時間：平日９：30～17：00）

http://www.naganomarathon.gr.jp

陸協NEWS

JAAF HOKKAIDO 財団法人北海道陸上競技協会

〒064-0810札幌市中央区南10条西13丁目3-22
TEL：011-520-7801　FAX：011-520-7802
http://hokkaido-rikkyo.jp/

例年にない大雪にみまわれた札幌ですが、2013年度に向けての競技会日程も決まり、来るシーズンに向けての準備を進めています。今年で11回目の開催となるホクレン・ディスタンスチャレンジは、前年同様４会場で開催されます。第１戦６月26日（水）士別会場、第２戦６月29日（土）深川会場、第３戦７月３日（水）網走会場、第４戦７月６日（土）北見会場で国内の長距離トップランナーの熱戦が期待されます。2013北海道マラソンは、８月25日（日）に開催致しますが、昨年に引き続き、参加者の拡大を図り、フルマラソンは1,000名増員の12,000名の定員で募集を行い、また、今年から新たな試みとして11.5㎞のファンランを定員3,000名の募集で新設されました。

JAAF AKITA 秋田陸上競技協会

〒011-0911秋田市飯島字飯島水尻454-3
TEL：018-845-0099　FAX：018-845-0099
http://akita-riku.fiw-web.net/

去る１月20日に開催された都道府県対抗男子駅伝において、念願だった８位入賞を果たすことが出来た。今冬は、大雪と低温に見舞われ例年になく練習場所の確保に苦慮し、走り不足による本番での成績が心配された中での入賞で、長年の強化策が実ったものと関係者一同喜んでいる。

ジュニア駅伝競走の開催、中高一貫した強化が実を結んだものであり、強化担当者の努力に敬意を称するものである。

今後も、成績の上がらなかった女子・トラック、フィールド競技も含め、陸協・関係団体と一体となった強化策の展開を図りたい。

（文責／理事長：鈴木文男）

JAAF AOMORI 一般財団法人青森陸上競技協会

〒038-0021青森市安田字近野234-7 青森陸上競技場気付
TEL：017-736-8420　FAX：017-736-8134
http://www.jomon.ne.jp/~arikkyo/

１月26日（土）25年度第１回東北陸協理事会を青森市で開催しました。25年度の東北選手権の山形県開催と実施要項について確認を致しました。輪番制で行われています東北陸上競技協会の会長・理事長・事務局は25年度・26年度の２年間は宮城県が担当いたします。事務引き継ぎは３月中に行う予定です。

１月に行われました全国都道府県対抗女子駅伝・全国都道府県対抗男子駅伝ともに今までの成績を上回ることができず誠に残念でした。特に女子の10キロを走るランナーと、男子の中学生・高校生ランナーの育成が課題と思います。選手強化対策として２月の連休を利用し３泊４日で沖縄合宿を実施いたしました。２月16日には第２回の評議委員会を実施いたしました。今年度は、役員改選の年度です。４月６日（土）に臨時の理事会・評議委員会を開催し新役員を選出する予定です。　（文責／専務理事：安田信昭）

JAAF YAMAGATA 一般財団法人山形陸上競技協会

〒994-0103天童市大字川原子1445番地の2
TEL：023-657-3070　FAX：050-7561-0534
http://jaaf-yamagata.jp

グラウンドを除雪しての練習、インフルエンザ感染による都道府県男子駅伝の前日選手変更など様々な出来事があった厳寒の季節からようやく春を感じるようになりました。

今年は東京国体、冬季間ブロック毎の合宿や２月の味の素NTCでの本県トップ選手の強化合宿を行い、トラックシーズンへ向けた強化を図ってきました。一方、４月下旬には３日間に亘る県内を縦断する駅伝大会があり、準備に奔走しています。

また、事務局では法人化１年を迎え、初めての決算と税務申告準備などに備える日々となっています。　（文責／専務理事：矢萩治男）

JAAF IWATE 一般財団法人岩手陸上競技協会

〒020-0822盛岡市茶畑2丁目8-27
TEL：019-621-8460　FAX：019-656-9006
http://long-distance.jp/iwate/

一般財団法人化になり、一年を終了しようとしていますが、初めての法人化による一年間の収支決算を含め大変な事務処理に追われる毎日である。

今までの協会の諸会議の日程も大幅に変更せざるを得ず、又、今年は、本協会の役員改選期にもなっている中、４年後の国体開催に向けての役員の編成も考えられ、組織と強化について大いに意見交換がなされた。

協会、一丸となり諸問題について取り組んでいきたい。

JAAF FUKUSHIMA 福島陸上競技協会

〒960-8135福島市腰浜町3-41
TEL：024-524-3620　FAX：024-534-0339
http://gold.jaic.org/fukushima/

協会主催の今年度の競技会はすべて終了し、次年度以降に向け準備に入っています。何と言っても最大の話題は、平成26年６月に第98回日本選手権が県営あづま陸上競技場での開催が決定し、選手の皆さんがより良い条件で競技ができるように準備に入りました。日本陸連を始め県内の様々な方々のお力添えを頂戴し実施の運びとなったこと、心より御礼申し上げます。県当局では震災・原発で大変な時に大型映像設置も考慮に入れ検討してくれています。期待外れとならないよう福島陸協として大会の成功に向け精一杯の努力を積み重ねていかねばならないと、会員一同気をひき締めているところです。　（文責／理事長　佐藤勇）

JAAF MIYAGI 宮城陸上競技協会

〒981-0122宮城郡利府町菅谷字舘40-1　宮城県総合運動公園内
TEL：022-767-2194　FAX：022-767-2194
http://www.miyaginet.com/mrk/

震災から２年がたちました。全国の多くの関係者の皆様からご支援をいただきありがとうございます。まだ時の止まった光景を目にすることもありますが、少しずつですが復興に向けて前進をしております。県の主競技場の宮城スタジアムは昨年９月に改修を終え、協会運営の目途もたちました。又、競技者も練習や合宿等にも頑張れる環境に戻ることができました。

当協会は４月１日より一般財団法人に移行することになり新しい体制のもとで平成25年度の協会運営をスタートさせることとなりました。競技面では競技場での県内大会は勿論のこと全国各地から参加者を募集して実施する各ハーフマラソン大会、そして全国の大学、実業団女子の駅伝大会等の全国規模の大会の開催を含め昨年度と変わらない競技会を計画しております。

本年度も選手の為の競技運営に努めてまいります。（文責／理事長：殿内信一）

JAAF IBARAKI 茨城陸上競技協会

〒311-4151水戸市姫子2-349-13　潮田茂様方
TEL：029-253-4661　FAX：029-291-5362
http://irk.bent.jp/

24年度本陸協諸事業も滞りなく終了しました。震災で損壊を被った笠松競技場復旧工事は、各種競技会開催に大きな支障をきたしました。しかし、これらの厳しい状況も関係各位のご支援・ご助力と、4289名の会員の皆様のご協力により、大過なく乗り越えることができました。

さて、次年度は役員改選期にあたるため、昨年12月に臨時総会を開き次期役員を決定しました。関山由雄会長留任ほか、理事長以下大筋で従来のスタッフが選出されました。しかし、かつて水戸国際競技会等を開催、19年に渡りその職を全うしていただきました安野副会長、日立さくらロードを行い長距離部門でご尽力をいただきました酒葉副会長が、定年制によりご退任となりました。新役員一同、６年後の茨城国体を見据え、新たな気持ちで茨城陸協発展のために邁進する所存であります。　（文責／理事長：潮田茂）

JAAF TOCHIGI 栃木陸上競技協会

〒320-0058宇都宮市上戸祭3丁目7-30　諏佐収様方
TEL：028-624-6351　FAX：028-624-6351
http://www.jaaftochigi.jp/

若い選手たちが活躍しています。12月16日に行われました全国中学駅伝大会において、男子は初出場の塩谷中学校が堂々の３位入賞、女子は真岡中村中学校が４位入賞を果たしました。また、12月23日に開催された全国高等学校駅伝大会の男子では、初出場の白鷗大足利高等学校が６位に入賞するなど目覚ましい活躍をしました。年明けの１月13日の全国都道府県対抗女子駅伝大会では若いチームで22位。20日の全国都道府県対抗男子駅伝大会では、大学生２名、高校生３名、中学生２名の全員10代の若いメンバーで出場し、レース前半は上位での力走を見せてくれました。最終的には13位という次回に繋がる成績を収めました。今後とも全国の檜舞台で活躍できるチームづくりに邁進します。

JAAF TOKYO 一般社団法人東京陸上競技協会

〒160-0021新宿区歌舞伎町1-28-3　武井ビル4F
TEL：03-3203-6123　FAX：03-5292-0196
http://www.toriku.or.jp/

2013年は一般社団法人から一般財団法人へ東京陸協は大きく変わります。それに伴い役員の選出方法、組織運営が法人にふさわしい形に変化します。激動の一年となる中で東京選手権、セイコーゴールデングランプリ2013東京、日本選手権、スポーツ祭東京2013など国際大会、全国大会のビックな大会が目白押しである。準備期間が重なったり、役員の編成にも工夫が必要であったり、イベントの演出を考えたり、今までに経験したことがないくらい忙しい日々である。また、９月７日にはオリンピック・パラリンピックの開催都市が決まる。

それだけに今年の前半は勝負の時期である。

JAAF GUNMA 一般財団法人群馬陸上競技協会

〒370-0871高崎市上豊岡町145-5　今井酒店気付
TEL：027-345-7790　FAX：027-345-7791
http://gold.jaic.org/gunma/index.html

第20回全国中学校駅伝大会（女子）で前橋市立富士見中学校が初優勝を飾りました。また、皇后盃全国都道府県対抗女子駅伝競走大会でも群馬県チームが６年ぶりとなる７位入賞を果たし、県内に朗報が届きました。

特に中学駅伝においては、群馬県勢は男女で優勝６回を含む16度の入賞という素晴らしい結果を残しており、中体連指導者の手腕と熱意が大変評価されるところです。

県内では３月初旬に少年少女（小学生）の駅伝大会を開催しました。近年、ロードレースの人気が高まっておりますが、中学・高校・一般へと繋がるような優秀な選手が発掘され、継続した育成をしていただけることを期待したいと思います。

JAAF KANAGAWA 神奈川陸上競技協会

〒231-0012横浜市中区相生町1-18　光南ビル５F-B
TEL：045-210-9660　FAX：045-210-9667
http://www.kanagawariku.org/

１月13日に京都で行われた、「皇后盃第31回全国女子駅伝」おいて、本県は５回大会以来26年ぶりに優勝を果たすことができ、記録的にも大会新記録という最高の結果になりました。これも、日頃切磋琢磨して練習に励んだ、中学、高校、実業団の各カテゴリーの力がチームワーク良く結集できた結果と感じています。これからも常に上位に位置できる力をつけたいと思っています。

また、昨年12月の代表委員会で法人化に向けた定款が承認され、４月１日に向けて準備を進めています。

来年度の競技日程も固まってきました。今年はJ1に３チームが所属し、競技場の日程調整に注意を払いました。大切なことは競技場とのコミュニケーションを密にし、人間関係を大切にしていきたいと思っています。

（文責／理事長：橘川眞佐志）

JAAF SAITAMA 一般財団法人埼玉陸上競技協会

〒362-0034上尾市愛宕3-28-30　県営上尾運動公園陸上競技場気付
TEL：048-771-4248　FAX：048-772-4566
http://sairiku.net/

昨秋、岐阜で開催されました第67回国民体育大会で天皇杯３位、皇后杯では優勝することができました。また、都道府県対抗駅伝競走大会は女子が15位。男子が４位と大健闘致しました。法人化もスタートして２年目に入り、現在は細則等の検討が最終段階を向かえております。来年度の大会開催日程もほぼ決定し、新年度の準備が整いつつあります。９月20日（金）～22日（日）は「第61回全日本実業団対抗陸上競技選手権大会」が熊谷スポーツ文化公園陸上競技場で開催されます。大会に出場される選手の皆様が気持ちよく大会に参加して頂きますように万全な準備態勢を整えると共に、全国各地から多くの方々のご来場を心待ちにしております。

JAAF YAMANASHI 山梨陸上競技協会

〒400-0024甲府市北口2-14-14　山梨文化会館東館内
TEL：055-251-4581　FAX：055-251-4581
http://yamanashitf.web.fc2.com

山梨陸協は昭和４年の誕生から83年の歴史を積み平成25年４月より一般財団法人として新たなスタートをきる。組織強化や財務の透明化などをより明確にすることで社会的な信用度を増し、皆から寄せられる期待度もより一層増すであろう。二年かけて準備してきたがまだまだ改革しなければならない問題が山積している。これを機に再度力を結集し「山梨はひとつ」の合い言葉のもと、山梨陸協のシンボルマークのごとく情熱と向上の志をもって、コツコツと地道に前進していきたい。　（文責／理事長：保坂一仁）

新役員　会長　野口英一
副会長　樋　幹也　渡辺正志　雨宮正行　渡辺　悟
専務理事　保坂一仁　常務理事　半田昌一
事務局長　深沢一三

JAAF CHIBA 千葉陸上競技協会

〒263-0011千葉市稲毛区天台町323
千葉県総合スポーツセンター　国際千葉駅伝事務局内
TEL：043-252-7311　FAX：043-252-7314　http://www.jaaf-chiba.jp

男女の全国都道府県対抗駅伝も無事終了し、女子は県最高記録で４位、男子は過去最高順位の５位タイで、男女ともに入賞することができました。ここ数年間の強化が実りこの結果を出すことができました。今後は、男女とも優勝を目指し、中学・高校・一般の各カテゴリーで更に強化を図っていきます。

２月10日（日）に第48回千葉国際クロスカントリー大会を、千葉市昭和の森で実施しました。今年も約３千人の選手が参加し、世界クロスカントリー選手権の代表を懸けて、熱戦を繰り広げました。昨年から、コースを改良し選手を間近にして応援・観戦ができるように変え、飲食物の提供やモニターの設置によりレース全体を視聴できるようにしております。風もなく暖かい絶好のコンディションとなった今年は、さらに大勢の皆様がお越しくださり、昭和の森はクロカンファン・長距離ファンで賑わいました。

JAAF NIIGATA 一般財団法人新潟陸上競技協会

〒950-0933新潟市中央区清五郎67-12　東北電力ビッグスワンスタジアム内
TEL：025-257-7636　FAX：025-257-7691
http://www.nrkk.net/

間もなく待ちに待ったシーズンが始まります。この冬も各ブロック各種別でさまざまな冬期練習を積んでまいりました。昨年の成績を上回るべく小中高大実一般と2013年も大いにがんばってまいりたいと思います。

さて、昨年暮れの日本陸連の理事会で承認をいただき、2015年の日本選手権が新潟に誘致されることとなりました。本県にとってはこの上ない喜びであります。その責任の重さを感じながら、日本陸上競技界最大の競技会の成功に向けて、日本陸連の皆様をはじめ、先催県陸協や多くの皆様のご指導をいただきながら準備を進めてまいりたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。

◇このページでは、各都道府県陸協から寄せられた情報を紹介しています。各陸協の掲載は３カ月に１回の頻度です。

陸連時報 2013年4月号目次

2013年度強化委員会各ブロックの抱負（強化委員会）— 166
第8回世界ユース陸上競技選手権大会（2013／ドネツク）
日本代表選手選考要項について ——— 171
第13回JAAFコーチング・クリニック、第14回JAAFコーチング・クリニック報告
（普及育成委員会　櫻田　淳也）——— 172
2012年度全国競技運営責任者会議報告
（競技運営委員長　吉儀　宏）——— 174
2012年度全国検定員会議報告
（施設用器具委員会　平塚　宣信・米岡　利昌）——— 176
アジア陸連理事会報告（理事・国際委員長　田中　克之）— 178
大会観戦ガイド ——— 179
陸協NEWS ——— 180
事務局からのお知らせ ——— 182

JAAF
Japan Association of Athletics Federations

陸連時報編集委員

◇編集委員
河野　洋平（陸連会長）
横川　　浩（陸連副会長）
三宅　勝次（陸連副会長）
澤木　啓祐（陸連副会長）
尾縣　　貢（陸連専務理事）
原田　康弘（陸連強化委員長）
風間　　明（陸連事務局長）
高橋　克実（陸上競技マガジン編集長）
◇時報編集室責任者
森　　泰夫
◇時報編集担当
繁田　　進
石塚　　浩
木越　清信
宮田　　宏
本田香代子
森谷　真咲

事務局からのお知らせ

◆◇2013年トラック&フィールドシーズンが始まります！◆◇

いよいよ今夏8月開催のモスクワ世界陸上競技選手権の代表の座をかけた2013年トラック&フィールドシーズンが始まります！

日本陸上競技連盟主催の競技会の日程は、公式ホームページ http://www.jaaf.or.jp/pdf/2013calendar.pdf　に掲載しています。

是非、競技場でご声援をお願い致します！

◆◇メールマガジン配信中！◆◇

日本陸連公式メールマガジン「JAAFアスレティックメール」

登録は　https://mm.jaaf.or.jp/mailmagazine/　か右のQRコードから！

JAAF

日本陸連公式マスコット
“アスリオン”

公　告

「陸連時報」は、公益財団法人日本陸上競技連盟定款第４条第6号の「機関誌」の性格を有するものでありますが、毎月「陸上競技マガジン」と一体として発行しています。陸上競技に関する啓発記事のほか、必要に応じて、評議員会、理事会の決定事項、各専門委員会、事務局からの報告、通達も掲載いたします。本時報に掲載した通達は、公式に通達したものと取扱わせていただきますので、登録競技者は本時報の掲載内容にご注意下さい。また、陸上競技指導者の方は、所属競技者にお知らせ下さるようお願いいたします。　　公益財団法人　日本陸上競技連盟

陸連時報編集室

〒163-0717
東京都新宿区西新宿２－７－１
小田急第一生命ビル17階
公益財団法人日本陸上競技連盟事務局　内
TEL 03-5321-6580
FAX 03-5321-6591
ホームページ http://www.jaaf.or.jp/
公式動画サイト http://japanathletics.tv/